

# 熊本県で開発した新技術

熊本県農業研究センター

2022

## 前作でトルコギキョウ斑点病が発生したほ場では 初発確認後から7日間隔で薬剤防除を行う

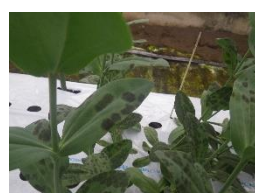


写真1  
トルコギキョウ  
斑点病の病斑

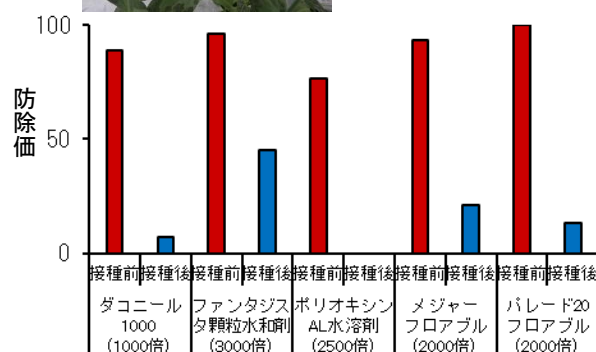


図1 散布時期による薬剤の防除効果

注) 供試品種は、接種前試験ではプライムホワイト、接種後試験ではF1モンローを使用。  
薬剤散布はそれぞれ3回行い、最終散布7日後に病斑面積により指数別に調査し、評価した。

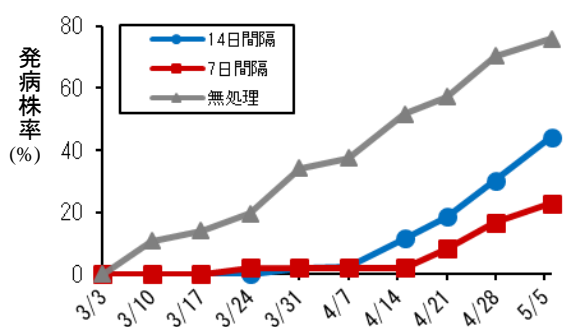


図2 各防除体系と発病率の推移

注) 11月上旬収穫時点で斑点病が発生していた株を、12月下旬から加温して抽だいさせた2度切り栽培で実施した。供試品種は、プライムホワイトを用いた。

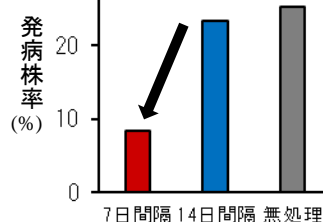


図3

上位6対葉の発病株率

注) 最終調査時において、商品価値に影響する上位6対葉に1対葉以上病斑が認められた株の割合。

### 問 研究のねらいは？

答 トルコギキョウ斑点病は、県下全ての産地で発生が確認されており、葉に灰褐色から黒褐色のすす状病斑を生じ、商品価値を著しく低下させることから生産上の問題となっています。そのため、本病害に対する農薬の登録を有する各薬剤の防除効果および効果的な使用時期を明らかにしました。

### 問 研究の成果は？

- 答
- 1 トルコギキョウ斑点病菌の接種後から薬剤散布を開始した場合では、全ての薬剤で防除効果は低い結果でしたが、接種前から薬剤散布を開始した場合は、高い防除効果が得られました(図1)。
  - 2 初発確認後から7日または14日間隔で薬剤散布することで発病株率を低減でき、商品価値に影響する上位6対葉に対する防除効果は7日間隔が高くなりました(図2、3)。

### 問 普及するうえで注意する点は？

- 答
- 1 供試農薬は、2021年2月末現在で登録のあるものを用いました。農薬の最新の登録内容を確認して、記載事項を厳守してください。
  - 2 ダコニール1000の散布は葉に汚れを生じるため、湿展性の展着剤を加用することで防除効果に影響することなく、汚れを軽減できます。